

## 香川看護専門学校自己評価報告

本校では平成22年6月から、自己点検・自己評価委員会を設置し、「看護師等養成所の教育活動等に関する自己評価指針」に基づいた自己評価表を作成し、学校全体で自己評価に取り組んできました。平成23年3月には「看護師等養成所の運営に関する指導要領」の改正により、養成所は教育活動その他の養成所運営の状況について、自ら評価を行い、その結果を公表する事となりました。そこで、自己評価の公表及び学校関係者評価に取り組んでいます。

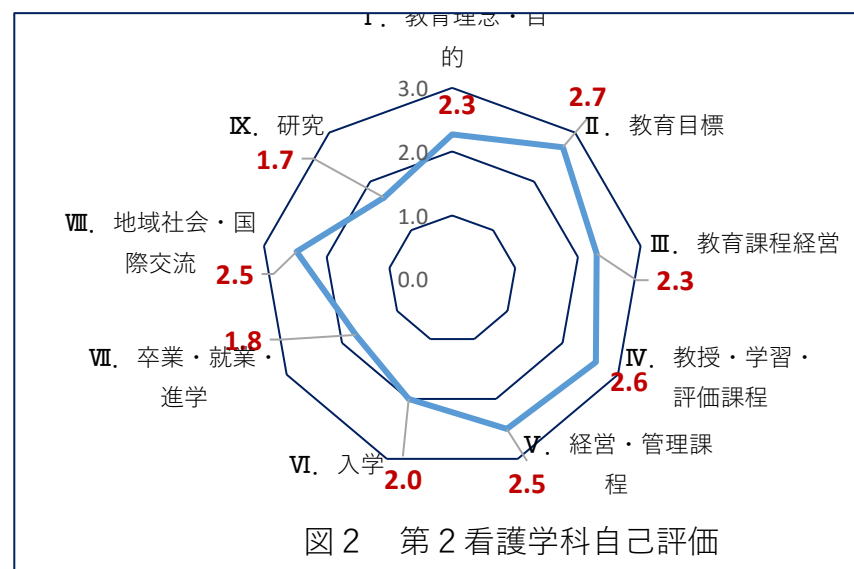
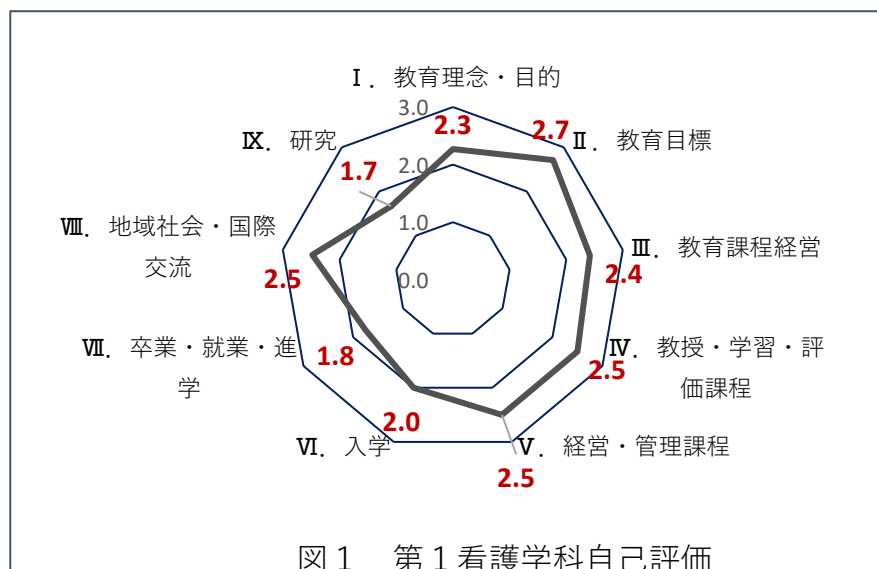
### 目的

教育研究水準の向上を図り、教育目的を達するため、教育研究活動等の状況については自ら点検及び評価を行うものとする。

### 自己点検・自己評価の方法

1. 毎年、「看護師等養成所の教育活動等に関する自己評価指針作成検討会の報告書」を参考に評価内容の一部を修正した自己評価表を用いて、教員、事務職員が自己点検・自己評価を行う。評価基準は「当てはまる」：3、「やや当てはまる」：2、「当てはまらない」：1と数値化して、各領域ごとに平均値を出し、分析し課題を明らかにする。
2. 第1看護学科と第2看護学科に共通する I. 教育理念・教育目的、II. 教育目標、V. 経営・管理課程、VI. 入学、VII. 卒業・就業・進学、VIII. 地域交流・国際交流、IX. 研究については学校全体で自己評価し、III. 教育課程経営、IV. 教授・学習・評価課程は各学科で自己評価する。
3. 課題については改善目標・対策をたてて、改善に取り組む。
3. 再び、自己評価表を用いて自己点検・自己評価を行い、取り組みの成果を明らかにする。

### 平成28年度自己評価の結果および課題



自己評価の結果は上記の図1、図2に示すとおり、VI. 入学、VII. 卒業・就業・進学、IX. 研究の評価が2.0以下となっている。この項目については早急に改善に取り組む必要がある

1. すべての項目に共通して、学校運営を行うための組織の基盤となる学則・諸規定の整備が不十分で明文化が望ましい事柄がある。また、自己点検・自己評価への取り組みが一部職員となっているため、自己点検・自己評価に必要な資料の数値化が不十分である。
2. VI. 入学については応募者の推移をみると、両看護学科ともに、28年度より29年度は微増となっているが、入学試験の倍率は29年度1.1である。応募者の確保を最優先に募集活動を行い、入学者の確保につなげることが喫緊の課題である。入学状況、入学者の推移は入学者選抜委員会で分析結果を報告し、職員間で共通認識しているが打開策を出すまでには至っていない。選抜方法の妥当性については、試験問題作成基準、問題の検証、面接方法を検討し入学生の質の確保が必要である。
3. VII. 卒業・就業・進学については、卒業時の看護技術到達状況は両看護学科ともに卒業前演習で確認している。この演習では臨地で経験が難しかった胃管挿入・採血や人工呼吸器の管理を中心に実施後の看護技術の到達状況のアンケート、卒業後8ヶ月めに社会人基礎力に関するアンケートを実施しているが、されていない場合がある。今後、結果を適切に分析し課題を明確にしていく必要がある。  
教育理念・教育目的と卒業生の到達状況との整合性については、卒業生は全員医療職として就業している事、県内就職率が76%、国家試験の合格率合格率97.4%以上という結果から合致している。また、実習病院では卒業生の状況把握はできているが、全員の把握に至っていない。調査内容や時期など調査体制に課題がある。実習病院であっても看護部から詳細を聞くことは個人情報の保護の観点から難しい状況になっている。同窓会を活用して把握していきたい
4. IX. 研究については教務運営方針で述べられているが、研究活動の時間は設けられていない。教員研修規定には研修費は規定されているが、研究活動の支援体制が整っているとは言い難い。また、研修費の活用状況にも個人差があり、教育力の底上げに繋がるよう計画的に研修参加を推進する必要がある。

#### 取り組むべき課題

1. 自己点検・自己評価に必要なデータをできるだけ数値化し、評価資料を作成する。
2. 入学については入学生の質と量の確保のために応募者数を増やす。
3. 卒業・就業・進学については卒業時の到達度の評価、卒業生の社会人基礎力のアンケートを分析し、教育活動へフィードバックする。
4. 教育力向上に繋がる研修への参加率を上げる。